

第1学年1組 学級活動（2）学習指導案

指導者 武田きよみ（T1）

伊藤江津子（T2）

1. 日時 平成30年12月4日 5校時
2. 題材名 すききらいなく なんでも たべよう
3. 児童の実態と題材設定の理由

本題材は、特別活動の内容〔第1学年及び第2学年〕の「学級を単位として仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常の生活や学習に進んで取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと」に属し、共通事項（2）「日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」について指導していくものである。

心身ともに健康な体をつくるためにはバランスよく食べることが大切である。本学級の児童は、給食を残す児童も多く、給食時の食の細さが目立つ。野菜や魚を苦手としている児童が多く、給食のメニューによっては残菜が多い日もある。

毎日、おかわりをしている児童は、7・8名で、毎日残している児童も10名ほどいる。残す理由として、牛乳・サラダが苦手という児童が非常に多く、フルーツが苦手という児童も中にいる。普段の給食でもサラダの残菜が目立っている。

本題材では、食べ物の働きを知ることによって食、栄養に対する興味を高め、3つのグループの食品をバランスよく食べることの大切さを理解し、好き嫌いをせず食べられるように導いていきたい。

4. 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
自己の身の回りの問題に関心をもち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活や楽しくするために日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

5. 本時の展開

（1）本時のねらい

バランスよく食べることは、健康に良いことに気づかせ、好き嫌いをせずに何でも食べようとする意欲や態度を育てる。

(2) 展開

時配	活動内容	支援 (○) と評価 (◎)	資料
5	1. きつねうどんと給食では、 どちらがよいかを考える。 ・きつねうどんが好き ・いろいろな食べ物が入っているから給食がよい	○教師は、きつねうどんがよいことを話す。(T 1)	・きつねうどんと給食の写真
30	2. なぜ給食にきつねうどんだけでは出ないのかを考える。 3. 本時の課題を知る。	○給食には何か秘密があるのでは、という思いをもたせる。(T 1)	
	給食の ひみつをしろ。		・食品カード
	4. 給食に使われていた食品を知り、食べ物の働きについて考える。	○給食にはたくさんの食品が入っていることに気づかせる。(T 2) ○食品カードをグループごとに分けながら黒板に貼りつける。(T 2)	・ワークシート
	5. 3つのグループのパワーを知り、給食に使われる食べ物のグループ分けをする。 ○黄のグループ ○赤のグループ ○緑のグループ	○グループ分けをできない児童には、黒板を確認してもよいことを伝える (T 1) ○苦手な食べ物が果たす働き(パワー) も確認させる。(T 2) ○給食はいろいろな食材を使い、栄養のバランスを考えて作られていることに気づかせる。(T 2)	
	6. 苦手な食品を残すと、栄養のバランスが悪くなり、元氣になれないことを知る。	○人の体は食べ物によって作られていることを理解させる。(T 2)	

10	・元気がなくなり、たおれる 7. わかったこと、これからが がんばりたいことをワークシ ートに書き、発表する。 ・給食を残さず、食べよう ・いろいろなものを食べよう		
----	--	--	--

(3) 板書計画

きゅうしょくのひみつを しろう。			
きつねうどん の写真	給食の写真	あかの たべもの からだ ぐんぐん	きいろの たべもの ちから もりもり
		みどりの たべもの げんき るんるん	
きづいたこと ・きゅうしょくのほうがやさいもある ・いろいろなたべものがはいつている		わかったこと・がんばりたいこと ・きゅうしょくをのこさず、たべよう ・いろいろなものをたべよう	